

コロナ禍におけるフッ化物洗口について

1 現状

県内のフッ化物洗口（フッ化物洗口液を用いた 30～60 秒間のブクブクうがいであり、洗口後 30 分間飲食を控えることにより通常の歯磨きより高いむし歯予防効果が期待できる）の直近 3 年間の施設別実施率は次のとおりである。

	H29	H30	R1
幼・保・認定子ども園	62.5%	61.4%	62.3%
小学校	94.0%	95.5%	98.5%
中学校	81.6%	82.5%	88.6%
特別支援学校	6.7%	13.3%	13.3%
全体	74.6%	74.8%	77.0%

全体の実施率は向上している一方で、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、休校や洗口の一時中断といった状況が続いた地域もあった。また、一部の学校歯科医からはフッ化物洗口の中断や昼食後の歯磨きの影響もあり児童や生徒の口腔環境の悪化が懸念されるとの声があった。

当課からは市町村や保健所に対し口腔衛生学会や日本学校歯科医会が公表した情報（参考資料 2，3）の共有を図ったほか、啓発資材（参考資料 4）の作成を行った。

2 今後の対応

コロナ禍においても良好な口腔環境を維持するために、市町村を通じてコロナ禍における洗口や歯磨きの実施状況（中断の期間）を調査する。

その結果を元に、感染症拡大下においても適切なフッ化物洗口や歯磨きの実施を維持できる体制の構築を目指す。